



「創学舎のためのブックガイド」

Vol.1 発行

このたび創学舎に通う小中学生のために、ブックガイドを作成しました。コロナ禍にあつて外出がままならぬ今日、自宅で過ごす時間が長くなった子供たちに有意義な時間を過ごしてもらう一助になればと考えています。

ブックガイドは全三巻、第一巻は秋、第二巻は冬の発行を予定しています。全部で三〇〇冊の本を23のジャンルに分け、各巻一〇〇冊、それぞれタイトル・筆者・出版社を示し、簡単な内容紹介をしています。また、図鑑・学習漫画・英語多読教材などは別にコーナーを設けて詳しくガイドしています。なお、タイトルの前には、●…小学生(中・高学年) 向き ○…中学生 向き ◎…小・中学生両方に推奨の別を付しています。

本書の特徴としては、「学習法」「自己啓発」「哲学」など、創学舎の理念である「自己実現」「自己学習能力の育成」に則ったジャンルが設けられていること、「国語」「算数・数学」「英語・語学」「理科・科学」「社会」と各教科の弱点克服・興味伸長に役立つ本を集めたこと、入試頻出の文学作品を多く取り上げていること、「勉強に役立つ漫画」の紹介に力を入れていることなど、小中学生の学習に資するガイドとなっております。 それでは、以下内容を抜粋して紹介してみましよう。

一・「学習法」から。 ◎『夢を叶えるための勉強法』

鈴木光 (KADOKAWA)

テレビ番組「東大王」で有名になった、現役東大生が「家庭教師になったつもり」で書いた、勉強法ガイド。「目標・計画」の立て方から、問題を解くための「考え方」、暗記法、整理整頓などの環境づくり、テストの後の振り返り、科目別の攻略法まで、とてもいいねいに語ってくれていて、読みやすいです。

二では、他にも様々な学習法の本を紹介していますので、自分の勉強法を見つめ直す参考にしてみたいと思います。

二・「算数・数学」から。

◎『普及版 数の悪魔―算数・数学が楽しくなる二二夜』

ハンス・マグヌス・エンツェンベルガー(晶文社)

一や〇(零)の謎。ウサギのつがいの秘密。パスカルの三角形……。数の世界の

はてしない不思議と魅力をやさしく面白くときあかす、オールカラーの入門書。十歳から読める、数学嫌いがなくなる魔法の書。



三・「英語・語学」から。

◎ステップラダーシリーズ(BR)パブリッシング

英語多読学習の入門教材。中一・中二・中三

(英検五級・四級・三級相当)の三段階のレベル設定がされています。中一レベル(使用語彙三〇〇語)の作品では『美女と野獣』、『イソップ物語』、『アインシュタインの伝記』などが、中二レベル(語彙六〇〇語)の作品では『くまのプ

ーさん』、『赤毛のアン』、『星の王子さま』などが、中二レベル(語彙九〇〇語)では『ローマの休日』や『シャーロック・ホームズの冒険』などがラインナップされています。見開きごとのあらずじ、巻末ワードリスト、キーワード・キーセンテンス解説、音声無料ダウンロード付き。

四・「児童文学・青春小説(1)」から。

●『ぼくらの、サイテーな夏』

笹生陽子(講談社文庫)

日本児童文学者協会新人賞、児童文芸新人賞をW受賞した、笹生陽子の伝説的デビュー作。一学期の終業式の日、謎めいた同級生・栗田に「段落落ち」の勝負で負けた、ぼく。ケガしたばかりか、栗田と二人きりで夏休みにプール掃除をする罰まで下される……。こうして始まった「サイテーの夏」を経て、少年は変わり始める。友情、家族、社会などを、小学生目線で描ききり、児童文学界を驚かせた傑作。

◎『楽隊のうさぎ』 中沢けい(新潮文庫)

学校にいる時間をなるべく短くしたい、引っこ込み思案の中学生・克久は、入学後、ブラスバンドに入部する。先輩や友人、教師に囲まれ、全国大会を目指す毎日。少年期の多感な時期に、戸惑いながらも音楽に夢中になる克久。やがて大会の日を迎え……。中・高入試頻出。作者は千葉県館山出身。

五・「スポーツ小説」から。

◎『二・四三 清陰高校男子バレー部①』

壁井ユカコ(集英社文庫)

メンバー八人だけの田舎の弱小チームが頂点を目指す、アニメ化で話題沸騰の人気バレーボール小説。全五巻。東京の強豪校でトラブル

を起こしたチカは福井に転居し、幼なじみのユニと再会するがよそよそしい態度をとり続ける。優れた身体能力を持ちながらヘタレのユニと、才能ゆえに周囲との軋轢ばかり引き起こすチカ。ほろ苦い、始動編。

○『バラ・スター〈Side 百花〉』

阿部暁子(集英社文庫)

「たーちゃんは最強の車いすテニス選手になって。わたしはたーちゃんのために最高の車いすを作るから」。高校二年のとき、交通事故で脊髄を損傷し、車いすでの生活を余儀なくされた宝良を救ったのは、百花が勧めた車いすテニスだった。新米エンジニアとして苦闘する百花の姿を描く本書の次は、プレーヤーとしての壁に苦しむ『Side 宝良』もぜひ。七ページにわたり息の詰まる激闘が展開する、ジャパンオープン決勝の描写は圧巻!



他にも第一巻では次のようなジャンルを取り上げています。

六・「ミステリー」

七・「海外小説(1)」

八・「日本の近現代小説(1)」

九・「伝記・自伝」

十・「勉強に役立つマンガ」

九・「伝記・自伝」では、政治・音楽・科学・宗教・スポーツ・ビジネスなど様々な分野で活躍した人物を取り上げた他、おまけとして「十代の伝記・自伝」のコーナーを設けています。

十・「勉強に役立つマンガ」では、今回は国語と理科に役立つ漫画の特集。おまけとして学習漫画のガイドもしてあります。

お子さんとの本選びの参考に役立ててもらえれば幸いです。(片岡)

ニュースから学ぶ

「出会いを大切に」

私は、テレビでニュースを毎日見ます。五月に、「イスラエルがガザ地区を空爆」というニュースがありました。気に留めた方は少ないかも知れませんが、私はこのようなニュースを見ると悲しくなります。そして「どうして宗教のために争いをするのだろうか」と、いつも疑問に思います。少し勉強してみようと思いました。初めはどんな本を読もうかなどと考えていましたが、中田敦彦の『Yoneda』大学について見えてしまいました。ご存じの方も多いと思いますが、元芸人とは思えないくらい勉強しているなど感心します。中学生が視聴すれば勉強になると思います。同じニュースを新聞でも見かけました。その新聞に地図が載っていました。エルサレムという地名が目に入ります。ネットで検索していると、『日本人にとってエルサレムとは何か 聖地巡礼の近現代史』という本にたどりつき、早速図書館で借りて読んでみました。著者は実際にエルサレムで生活して、エルサレムそしてパレスチナとは何かを記しています。やはり、現地に暮らした方の考察は臨場感があるなど感じました。このように、一つのニュースから世界や歴史を知ることとはとても有意義で、後に自分の世界観を広げることに繋がります。

話は変わりますが、私はMLB(メジャーリーグベースボール)を観るのが大好きです。今はコロナ禍なので現地に行くことは叶いませんが、落ち着いたら行ってみようと思っています。二〇二二年にニューヨーク、ヤンキースタジアムに行つ

たときに、ヤンキースファンの男性に話しかけられました。「(あなたは)誰かお気に入りの選手はいるのか」と聞かれたので、「イチローだ」と答えました。その青年は「俺はポール・オニールが好きだ」というので「彼はクラッチヒッターだね」と言っただけでした。その男性は上機嫌になり、もつと話しかけてきました。だんだんスピードが速く、内容が難しくなり、私の英語力では手に負えなくなってきました。その時、もつと英語が話せるようになりたいと心から思いました。人は興味があることだと努力を惜しみません。それ以来英語の本を手にとることが多くなりました。



(ポール・オニール・ニューヨークヤンキースの一九九〇年代後半の第六黄金時代を支え、四度のワールドシリーズ制覇に貢献した選手)

別の話です。二〇二三年にジャパオンオープンテニス選手権を観戦しに有明コロシアムへ行きました。錦織圭を目当てに行つたのですが、そこで思いがけず、練習をしていた、ジョン・マッケンローを見かけました。少年の頃から憧れの選手だったので、その後の試合に集中できず、「マッケンローはどうして来たのだろう」ということばかり考えていました。結局エキシビジョンマッチに参加するために練習していたようです。ジョン・マッケンローのことを知らない方のために解説します。一九七〇〜九〇年前半まで、世界で活躍したプロテニスプレーヤーで、グランドスラム大会でシングルス七回、ダブルス九回優勝を成し遂げた名プレーヤーです。私はその出来事をきっかけに、十数年休んでいたテニスを再開し、今に至ります。私はテニスを通じて多くの仲間と出会い、たくさんの大切なものを得ました。大好

きなことを見つけて、それを共有できるたくさん仲間と出会い、そして情熱を注ぐことのできることもあることに幸せを感じています。皆さんも大好きなものに熱中し、充実した人生を過ごしてください。(末武)

集団知 13

●集団知(知っている、知らないに関わらず集団として受け入れた価値観・判断)の続きである。

●私が教えている高校生たちも数年後には大半が就職することになる。民間企業なのか公務員なのか分からないが、かなりの場合、一般教養を含む筆記試験は必須である。また看護師、薬剤師などの国家資格を目指す人は、大学に入ってからからの勉強はもちろん、その資格を得るための勉強はそれなりに大変である。こうしたことを考えると、一定の学習量と、そこから得た知識、それを達成するための学習能力の獲得を小中高の間になんておくことが重要であることが分かる。また就職後も、一定の資格の取得を求められることも少なくなく、昇進試験が待ち受けていることも多い。

●生徒を教えるに思っているのは、前述したようなことで損をしてほしくないということである。アイドルの歌を聴いたり、ゲームをしたり、TDLに行ったりするときの快感を勉強で得ることは勿論ないが、粘り強く勉強を重ねることで身につくこととはたくさんある(幸いな人は、学ぶ快感・分かる快感を味わうことができることも付記しておく)。その一部を前号に絡めて述べてみよう。参考書を読み込んで理解する力、ポイントをまとめる力、蓄えた知識を引き出す力。こうした力は実社会で①「粘り強く正確に作業ができる力」につながる。また数学を含めて、ケアレスミスをしな

よう順序だてて考える力は②「数字の間違いに気づく力」になる。勉強計画を立てて試行錯誤しながらその達成を目指すことは③「目標を設定する力」④「目標に向かって努力する力」につながる。

●こういうことを書くと、科目そのものの楽しさを伝えたいと熱い思いを持つ教師からは非難を浴びかねないが、科目を超えて学ぶことで養われる力があることは事実である。私は、高校で学ぶ英文法であれば何も見ないで、全項目板書で授業できるが、特に英語が好きな訳ではない。たまたま、やっているだけである。日本史も教えているが、これもたまたま。好きなのは、現代文や古文のほうである。私にとって大事なのは、学ぶことや受験勉強を通して生徒が精神的にも学力的にも成長してくれることである。その中で、ある科目を好きになり、その科目を学問として学び続ける生徒が出てくれば、それはそれで大きな喜びである。

●さて、受験勉強を通して身につくことは、他にもたくさんあるが、その中の大きな一つは、「一定の作業がイヤでなくなる」ことであろう。そもそも仕事は分らないことだらけで、他の人に聞けないことも多い。分からないことをあきらめず調べる習慣は非常に重要である。一方で勉強も学年が進めば、すぐには分からないことが増えてくる。ところが「はつと見て、分からないものはあきらめる、ほっておく」ことが染みついてしまった生徒はたくさんいる。授業をかき乱すわけでもなく、表面的には真面目な中で大過なくすごしてきたが、本人はもろろん親も教師も誰一人気付かず放置されてきたかわいそうな生徒たちである。

